

第7回 スマートウェイ推進会議作業部会 議事要旨(案)

1. 開催日時・場所

日時：2006年11月7日(火) 16:00～18:00

場所：虎ノ門パストラル 本館8階 けやきの間

2. 出席者(敬称略)

委員：川嶋部会長、赤羽、古川、廻、上條、長谷川、中山、西田、吹譯、山口、森、和迺(代理)、橋本、廣田

オブザーバー：加瀬川、小林(代理)、辻、竹内、鳥島、村重、馬場、小嶋(代理)、野村(正)

代理出席の委員は(代理)と表記

3. 主な意見等

- ・ フェリーでの車検証の提示は、車長の確認のためだけである。このような手続きを ETC を活用して省略するというのは非常に効率的な利用方法である。
- ・ 参宮橋の実験では、監視センサーの整備により、事故原因を詳細に特定することができ、情報提供や高機能舗装等の対策に結びつけることができた。
- ・ 軽自動車への普及も重要である。簡易型システムによる安全運転支援という考えも重要。
- ・ 路側で収集できるデータをどこまで高度化できるか、運用時と実験時にどのようなデータが収集できるのか、整理しておいてほしい。
- ・ 路 車の情報伝達だけでなく、車 路の情報伝達の仕組みも取り入れてほしい。
- ・ 走行中の音声情報は、わかりやすさ、わずらわしさ等の心理面も考慮したほうが良い。
- ・ 渋滞末尾の伝播速度などを考慮し、情報提供箇所については慎重に検討する必要がある。
- ・ 地図連携サービスは、どこまで官が関わるかを整理しておいたほうが良い。
- ・ 合流支援については、情報収集位置と情報提供位置の設定が非常に難しい。分析にあたっては、インフラの位置の影響も考慮して検証してほしい。
- ・ インフラ側での簡易な表示装置等による情報提供等も考慮してほしい。
- ・ 長期と短期の対応をバランスよく取り入れた対策としてほしい。例えば通信メディアとして Wi-Max 等の新たな技術も対象とすべき。
- ・ 総合的な視点、全体システムとしての視点が欠けていると感じる。ETC や VICS の延長だけではなく、未来に向けた新しい道路システムとしてのコンセプトを持ってほしい。

以 上